

山梨県水産技術センター・研究課題事前評価表  
山梨県水産技術センター課題評価委員会

(平成28年9月1日開催)

## 試験・研究課題名

大課題名：漁業被害の軽減

小課題名：外来魚の資源生態調査及び駆除技術の開発(H9～32)

ブラウントラウト完全駆除技術の開発(H29～32)

担当者名：研究管理幹：大濱秀規

評価項目	評価点	指摘事項
1 課題設定の必要性 (背景、社会的ニーズ)	5 / 5	在来魚や河川生態系へのインパクトが大きなブラウントラウトの定着は許容できるものではない。また、全国的にも外来魚の駆除に対する社会的ニーズが高まっており、本事業の課題設定は妥当である。
2 課題の新規性、独創性	4 / 5	河川からのブラウントラウトの駆除技術は全国に先駆けたものであり、新規性が認められる。先進的な取り組み姿勢を見せるためにも、これらの技術開発は必要である。
3 目的・内容の整合性、妥当性	4 / 5	ブラウントラウトの駆除を目的とした本課題の内容は妥当である。一方で、啓蒙による密放流対策や外来種の定着要因の解明も、本種の分布拡大の阻止に役立つだろう。
4 研究手法の的確性、技術的可能性	5 / 5	山梨県水産技術センターは、従来より外来魚の完全駆除技術の開発に成功している。また、予備研究および他の研究機関との連携も十分になされており、技術的可能性はきわめて高い。
5 成果の期待度	5 / 5	県産以外の魚種が河川に生息していることは望ましくなく、侵略的外来種の駆除に対する期待は大きい。
総合評価	5 / 5	ブラウントラウトは駆除対象とすべき侵略的外来種であり、本課題は重要である。一方で、密放流防止の啓蒙や本種の定着要因の解明にも期待したい。また、法・条例や新たな規制の整備の必要性についても検討してほしい。

## 「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

## 試験研究機関の処置

指摘のあった、定着要因の解明については、今後の課題として予備的な検討を行うこととする。また、研究の実施に平行して看板設置等による密放流防止の啓蒙にも努めることとする。なお、法的規制については、現在関係機関において検討が進められている。